

「ちゃんと聞こえる」「環境で理解する力を高めよう」

解説・金丸公治（かなまる補聴器ヒヤリングケアセンター）

面を着けると、耳が覆われた状態となるうえ、周辺視野も狭まる。数時間、普段とは違う環境に置かれることで、普段なら聞こえるはずがそうでもない、という状況になったことも多くの人が経験しているだろう。

これが日常的になった場合、もしかしたら聴力自体にも異常が発生しているのかもしれない。そしてそれは年齢には関係なく起こり得る。

「聞こえ」の専門家でも、剣道強豪校の出身で有段者でもある金丸公治さんに、一般的な耳の知識や自身のもとを訪れる愛好家の事例をつかった。

取材・文 安藤雄一郎



次ページにあるリストを見ていただきたい。心当たりのあるケースはいくつもあるのではないだろうか。

面を着けることによって普段より指示が聞き取りづらい状況になる。「何を言われたのか」「どちらなのか」と等と迷ったとき、多くの人は一瞬動きを止めて隣が何をしているのかを見て、それに倣うケースがほとんどだろう。経験則やこれまでの稽古の流れから判断することも多いはずだ。

稽古の前後、体育館の舞台側にいる人（指導者）があいさつをする声も、舞台と正反対の場所にいる人には聞き取りづらい。稽古後の個別のあいさつで指導者の言葉が聞き取りづらいつきもある。この場合は何らかの返答はしなければならないのにコロナ禍のときはマスクをしていたため、ほめられているのか叱られているのかの判断に困った人も多いはずだ。

多くのチームが入り乱れる錬成会等で指導者が指示を出すときも、周りの喧騒に指導者の声がかき消されるケースは多い。

狭い道場や武道場では音が壁にぶつかりさらに大きく響きやすい。声は壁の反響によって「ゆがみ」が生じるケースもある。

社会人としても「聞き漏らし」はできれば避けたい。そのためにも「表情から読み取る」といった視覚情報は非常に重要だ。また、伝える側も工夫は必要だ。指で数字を示したり何度か繰り返して説明をする、道場の中央から指示を出すときは前後に振り向きながら語りかけるなど、改善できる部分はあるだろう。

しかし、聞く側が「難聴」であった場合、状況は大きく変わる。そして、剣道愛好家のなかには難聴になっている人がかなりいるのではないかと、神奈川県川崎市で「かなまる補聴器」店を開業し、補聴器の販売に携わる金丸公治さんは言う。

■加齢による難聴は治らない

金丸さんの店舗では「言葉の聞き取り検査」の表が用意されている。一般的に、高い周波数から人は聞こえづらくなっているのだが、「サ行」「カ行」は高

こんなことはありませんか？

- 切り返しが「1回（1往復）」なのか「2回」なのか迷う。
- 「面に対しての応じ技」がたまに面なのか小手なのかわからなくなる。
- 「面体当たりひき面」「面体当たり小手」「面体当たりひき胴」といった練習内容が早口になって、途中の技が聞き取れなくなり、「いつもと違う？ どっち？」と混同する。
- 基本稽古のとき、「次は〇〇」、が聞こえない。
- 面を着けるとほとんど聞こえないので「目」で話を追う。
- 剣道の講習会や審判講習会での説明がほとんど聞こえない。周りの試合場で同じようにガチャガチャやっていたら邪魔で聞こえない。
- 黙想の前後の先生の話は聞き取れない。
- 指導者は舞台側にいるため、遠くにいる人に届かない。
- 質問が聞こえないため、回答が「はい」「いいえ」がわからないので「にござ」「うなずく」ことしかできない。

(カナマル補聴器ヒヤリングケアセンターを訪問した剣道愛好家から聞き取ったエピソードの一部)

い周波数になりやすい。たとえば「さかな」が「たかな」に聞こえたり、「かとうさん」と「さとうさん」が混同するなどの可能性がある(マイクとバイク、大工も混同しやすい一例)。29ページの表は、聞き間違えやすい言葉を一覧にしたものである。ぜひ知り合いにも聞こえが正常か

どうか確認してほしい。聞き間違えが多発した場合は難聴の可能性がある。「聴力検査は耳鼻科へ行けば受けることはできますが、ここまで細かな言葉の検査までやっている病院は少ない」と金丸さんは言う。すり傷等のケガは治療をすれば治るし自然に元に戻るが、加齢

による難聴は一度なったら回復しないという。だからこそ耳(音量)に対するケアを日常生活から意識しなければならぬ。金丸さんの店舗には多くの剣道関係者が訪問するほか、全国からの問い合わせメールや電話

は「剣道難聴」のコーナーも設けられているが、このページの閲覧数はつねに上位にあるという。「昔は耳が遠い先生が多かった……、もしかしたら私も？」と感じている剣道関係者の方は少なくないと思います」(金丸さん)

できるが、「耳が遠い」は当人には自覚が生まれにくい。「その生活が当たり前になっていく」ためだ。高齢者の健康診断の項目に聴力検査がないため(自費負担)、客観的な判断材料も得にくい。

■難聴は、さまざまな弊害を引き起こす

難聴にはさまざまな弊害がある。海外の調査によると、難聴があると抑うつが起こりやすく、難聴が高度になるほど交通事故を起こしやすい傾向があり、転倒もしやすいという。補聴器をつけたところ、バランステストにおいて身体が安定して転倒事故が減るという報告もある。難聴になると身体のバランスにも影響が出るのである。認知症の予防可能な要因の最上位が「難聴」である。「聞こえ」が改善すれば認知症の進行予防にもつながる。

イギリスでは補聴器が必要な人の5割以上が補聴器を使用しており、アメリカでは約35%、ドイツは約40%。これに対して日本は約15%である。補聴器に対する知識自体が乏しいことも普及が遅れている要因のひとつ。しかし、近年の補聴器の機能は格段に向上した。防水・防

このような状況だと、マイクなしで講師が話すと後方の人が言葉を聞き取ることが難しい



テストしてみよう

「かなまる補聴器」で用意されている、混同しやすい言葉のリスト。

ねずみ(鼠)	さかな(魚)	むしば(虫歯)	えのぐ(絵の具)	ぴあの(ピアノ)
けむり(煙)	ふくろ(袋)	めがね(眼鏡)	やおや(八百屋)	みるく(ミルク)
ちまき(粽)	たまご(卵)	だるま(達磨)	そふぼ(祖父母)	ぼすと(ポスト)
よろい(鎧)	あたま(頭)	ゆびわ(指輪)	わなげ(輪投げ)	ごりら(ゴリラ)
きつね(狐)	なみだ(涙)	ざせき(座席)	ぬりえ(塗り絵)	ぱいぷ(パイプ)
ひよこ(雛)	くるま(車)	こたつ(炬燵)	がらす(ガラス)	れたす(レタス)
うさぎ(兎)	いちご(苺)	すいか(西瓜)	まいく(マイク)	ばなな(バナナ)
からす(烏)	はなび(花火)	せなか(背中)	ぶらし(ブラシ)	じしゃく(磁石)
つくえ(机)	へちま(糸瓜)	しかく(四角)	とまと(トマト)	しゃべる(喋る)
ほたる(蛍)	らくだ(駱駝)	てじな(手品)	おでこ(おでこ)	きゃべつ(キャベツ)

塵機能にすぐれた補聴器もある。レストラン用やテレビ用の設定といったプログラムもあり、細かい調整もスマートフォンでの操作ですぐにできる。「だからこそ、スマートフォンを操作できる早い段階から補聴器の利用を検討

討してほしい」と金丸さんは訴える。金丸さんは「認定補聴器技術者」の資格を持ち、この資格者が在籍している店は「認定補聴器専門店」となるが、この資格がなくても補聴器の販売に携わることができる。補聴器を販売しているお店は8000店以上あるとされており、認定補聴器技術者が常勤している認定補聴器

専門店は1000店舗ほどに限られる。金丸さんは大学卒業後、補聴器の業界に入った。長年の経験で今の補聴器の性能が格段に上がった現状も把握している。また、長きにわたって剣道を続けてきた経験もある。「これまでの知識を活かして、『聞こえ方が変われば人生も変わる』ということを多くの人に伝えていき

たいと思っています」
※参考文献『よくわかる補聴器 選び』（八重洲出版）
(14ページも参照)



金丸さんは昭和51年1月佐賀県生まれ。神埼から佐賀学園高校へ進学し、高校時代はインターハイ出場、九州大会3位等の実績を残し、創価大学では全日本学生団体ベスト8も経験。卒業後、補聴器メーカーへ就職。小田急新百合ヶ丘駅近くに「かなまる補聴器」を開業



4年に及ぶ研修を受けた認定補聴器技能者が在籍し、補聴器相談医のいる耳鼻咽喉科とも連携しているお店には、「認定補聴器専門店」のボードが店内に掲示されている



かなまる補聴器
ヒヤリングケアセンター

川崎市麻生区上麻生1丁目6-3

電話 044-281-3358

URL <https://www.kanamaruhcc.com/>